

平成27年度
事業報告書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会

平成27年度 公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会 事業報告書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

今期は公益財団法人へ移行後3年目の事業年度となり、各公益目的事業を計画通り実施することを主眼に各施策を推進した。墓地見学者及び活動にご理解頂ける各種団体も増加し、清掃奉仕を実施していただいております。

本年度は、慰霊・追悼事業として実施した夏の万灯会や秋季慰霊祭に加え、戦後70年を迎えるにあたり、「今、旧陸軍墓地は」と題してシンポジウムを開催し、多数の方々に参加いただき、真田山陸軍墓地の啓発・普及活動に努めた。

また、各公益目的事業の内容の充実を図るための、財政基盤の強化については、維持会員の入会促進、増口の依頼についても僅かながら維持会員受取会費の増額につながった。自販機売上金からの寄付金については、関係各社の協力により安定した財源の一部となっている。以下に平成27年度の事業計画に基づき、実施した事業の概要について報告する。

1. 事業の実施状況

(1) 慰霊祭の開催による戦没者の崇敬と世界の平和を祈念する思想の普及に寄与する事業

(公益目的事業 1)

① 秋季慰霊祭の実施

本年度の秋季慰霊祭は、10月24日の土曜日午前10時半より実施した。

参詣者は遺族はじめ、地元出身国会議員、大阪府議会議員、大阪市議会議員、陸上自衛隊、各種団体から合計310名を超える参詣を頂き、晴天のもと無事に執行できた。

慰霊祭は、全員による国歌斉唱に引き続き、今回も陸上自衛隊の協力を頂き、当墓地に眠る精霊に対しラッパ吹奏「国の鎮め」を吹奏、黙祷の後、本門佛立宗清風寺住職・僧侶の奉仕による読経唱題、吉川理事長による祭文奏上、大阪府遺族連合会岡倉会長による追悼の辞、追悼電報披露、来賓焼香、参詣者焼香へと進み、11時40分に終了。

今年は、外務省関西担当大使や航空自衛隊から幹部候補生学校長兼奈良基地司令が、初めて御参詣いただいた。また、真田山旧陸軍墓地について周知する一環として、近隣の学校にも慰霊祭開催の案内を行った。

② 慰霊祭当日の講演会、写真パネルによる自衛隊の活動紹介並びに活花奉納について

慰霊祭終了後の午後12時30分より、管理棟において、京都造形芸術大学の伊達仁美先生を講師に迎え、「墓碑の現状と保存・修復活動について」とのテーマで講演会を開催し、当墓地の歴史的価値の啓発・普及に務めた。慰霊祭参詣者の中で、希望者約30名に受講を頂き、午後1時30分終了した。

また、当日慰霊祭会場では自衛隊大阪地方協力本部の協力により、写真パネルの展示コーナーを設け、自衛隊の災害派遣活動等の活躍の様子を参詣者に紹介し、紛争や災害のない平和な国づくりと国を守ることの大切さを啓発する一助とした。

この慰霊祭を通じて、今日の我国の平和は過去の幾多の戦争に際し、国を守るために戦い、尊い命を捧げられた将兵や戦没者の犠牲の上に築かれていることを一人でも多くの方に理解頂き、戦没者の崇敬と悲惨な戦争を二度と繰り返さない平和の尊さを尊重する思想の普及に繋がるものと確信する。

③ 万灯会の実施

本年も8月15日夕刻より、恒例になった万灯会を実施し、当墓地に眠る将兵に対し、慰霊供養を行った。今回は、事前に各種団体に協力を呼びかけ、当日までにローソクに和紙を巻く作

業を手分けして行ってもらった。当日は、天候に恵まれ、午後2時から除草及び清掃奉仕を頂き、午後6時50分にローソクを点灯し、合計150名を超える参加を頂いた。

④戦後70年シンポジウムの開催

本年度は戦後70年の節目の年を踏まえ、平成27年8月8日(土)15時から、大阪市中央区東心斎橋にあるT・Bホールにて、「今、旧陸軍墓地は」と題して、シンポジウムを開催した。第二次世界大戦の終戦から70年経つ今、日本最古の陸軍墓地の現状や果たす役割について、パネラーの方々に語り合っていた。会場には148名の方々にお集まりいただき、この様子は雑誌「正論」の2015年11月号に掲載された。

⑤諸団体が実施する慰霊行事、個人参拝者の支援

納骨堂や墓碑前で実施される本門佛立宗清風寺、念法真教、天理教はじめ各種宗教団体の月例慰霊法要の湯茶等の接待、自衛隊墓地研修時における献花対応、個人参拝者からの要請に基づく案内等の対応を行った。

(2) 墓地見学者の案内と学術調査活動により得られた調査・研究成果の啓発と普及を図る事業 (公益目的事業 2)

①真田山旧陸軍墓地の学術的調査活動の推進

当墓地の調査・研究を前年度に引き続き、大学教授、近現代史研究家等で構成する「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」に委託し、墓碑銘文及び納骨堂の遺骨の調査結果に基づき、埋葬・納骨将兵及び当陸軍墓地の歴史に関する研究を進めた。その成果として、「旧真田山陸軍墓地研究年報3」として提供を受けた。

同研究年報に掲載された研究報告は次の通り。

- ・真田山陸軍墓地での米軍捕虜飛行士殺害事件 福林 徹著
- ・群馬県における戦没者慰霊-「軍都」「忠霊」「護国」の視点から- 今井昭彦著
- ・三蔵法師の遺骨と陸軍墓地-弘前忠霊塔、
篠山遺芳殿、岸和田靖霊殿を事例に 坂井田夕起子著
- ・大阪府公文書館でみつかった写真
-大阪靖国霊場維持会十周年記念 慰霊大法要- 森下 徹著
- ・ゴル没後百年-第一次世界大戦と真田山陸軍墓地- 堀田暁生著

②墓地見学者に対する案内

当墓地については、これまでの歴史学者や研究者による学術調査・研究活動によって得られた成果、情報を歴史資料として、墓地見学者はじめ、広く一般に公開し、近代日本史に関する学術の振興に寄与することを目的として、見学申込の諸団体は勿論、個人見学者についても、案内に努めた。近年は、墓地周辺の観光客が多く、墓地を知らない方も訪れることから、積極的に案内の対応をした。詳細は事業報告書付表3「主な墓地見学会等の実施状況」参照。

③墓地資料展示室の整備と活用

墓地の案内希望者に対し、当墓地の歴史的価値や概要、また我々の活動を理解頂くため、可能な限り現地案内と共に墓地資料展示室を観て頂いた。そのため、保有している墓地調査資料やNPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会より新たに提供を受けた資料の展示や、展示説明文の更新を行うなど資料展示室の整備を進め、墓地情報の啓発・普及に努めた。

④パンフレット等の活用

墓地見学者や問合せのあった個人・団体には、墓地の概要、時代別墓碑例の紹介、当法人

の目的・事業内容等を簡潔に紹介したA4サイズ4頁のパンフレット「真田山旧陸軍墓地」や要請によっては、墓地について詳しく記載している B5 サイズのパンフレットを配付し、当墓地に関する情報の周知・理解に努めた。

⑤ホームページの活用

ホームページを法人の活動内容の広報の主要手段として、最新情報の掲載と内容の充実に努めた。27年4月～28年3月の1年間のアクセス件数は6,774件で前年度より1,660件増加し、真田山陸軍墓地に興味のある方が増えている傾向が伺える。

⑥マスメディアへの対応

今年度は、ラジオ1社、テレビは1社、新聞は2社からの取材を受けた。いずれの報道も、当墓地の情報を発信できるよい機会と考え、取材申し込みに対して積極的に対応した。

⑦墓地案内人育成のためのマニュアルの作成

近年、当墓地に関するテレビ・新聞の報道件数の増加に伴い、墓地見学者も増加していることから、パワーポイントを使用した墓地説明ができるように、資料を作成した。また、昨年作成した B5 サイズのパンフレットを活用し、案内が出来るようにした。

(3) 墓地・墓碑、その他施設の維持及び修復に関する事業(公益目的事業 3)

①劣化の進んだ墓碑の修復・保存活動

当墓地には、和泉砂岩製の墓石は3,526基あり、その大半が経年劣化により、剥離の進行や倒壊の危機に曝されており、墓碑の劣化進行防止は大きな課題となっている。今年度も強化処理の施工方法を確立した比較的傷みの軽微なAタイプ、Bタイプ墓碑50基の強化処理を実施した。薬剤は、ワッカーOH(ワッカーケミー社)を使用し、施工中はビニールハウスを基にした覆いを作成、墓碑の保護を行った。又、墓碑の洗浄については、ボランティアの方にも手伝っていただき、広範囲に行った。

また、本年度も損傷が進行しているCタイプの墓碑の修復・保存方法の技術的検討を進めるべく、京都造形芸術大学歴史遺産学科と委託契約を締結し、劣化進行を防ぐための具体的な保存方法の検討を進めた。平成28年度以降は、施工数を増やすと共に、引き続き京都造形芸術大学に委託し、損傷が進行している墓碑の修復・保存方法の技術確立と施工を目指す。

②個人墓碑の建替え希望遺族に対する支援について

自費で墓碑の建替えを希望する遺族からの要請については、建替基準(原状を変更しない条件)を提示し、大阪市長宛に届出に関する支援を行い、墓地景観の維持に努めることとしている。本年度の申請は1件あり、石材業者の紹介及び大阪市に対し、申請に関する対応を行い、本門佛立宗清風寺の土元評議員のご協力のもと、無事に建替えが完了した。

③墓地の除草・清掃等、環境維持活動

大阪市が実施される、植栽の剪定、草刈りの他、陸上自衛隊や諸団体のボランティアの協力を頂き、各団体の奉仕日や担当箇所の調整を行い、墓地の除草・清掃が実施でき環境の維持が図れた。特に、陸上自衛隊伊丹修親会を始め、中部方面総監部隷下の第三師団や第36普通科連隊の幹部候補生、隊員の研修として、毎年清掃奉仕に来て頂いており、大変有難く思っている。また、各種協力団体も数多く清掃奉仕にご協力頂き、常に清掃が行き届いている状態を保つことが出来、感謝している。

詳細は事業報告書付表4「墓地の清掃、除草等の環境保全活動の実施状況」参照。

④協力団体による協議会を開催について

6月29日、念法眞教、霊友会第八支部、天理教、大楽小楽の協力5団体の窓口担当者によ

る協議会を開催し、8月8日に開催したシンポジウムを始め、8月15日に開催する「万灯会」並びに10月24日に開催する「秋季慰霊祭」に対する事前の清掃奉仕・当日の参加協力要請を行うと共に、当日の進行内容や役割分担の協議を行い、それぞれの行事の成功に繋げた。

(4) 法人の運営・管理に関する活動状況

① 法令に基づく、法人の運営・管理について

行政庁への事業報告書、事業計画書等の定期提出書類は、法令に基づき遅滞なく届け出を行うと共に、会計処理規程の改定を行い、関係法令の遵守に努めた。また、今年度は大阪府の立入検査も実施され、運営への助言をいただき、今後の法人運営に活かしていく。

② 維持会員の入会促進

財政基盤の安定化を図るため、機会あるごとに広報活動を行い、維持会員の入会勧誘に努めた結果、昨年度末に比べ維持会員数で9名、口数で14口増加した。

その結果、3月末日現在で維持会員数は、法人会員数79名、個人会員数26名の合計105名、維持会費口数で218口となった。

今後も事業内容の充実を図るため、維持会員の入会勧誘並びに増口依頼に務める。

③ 寄附金募集の推進

寄附金については、維持会員の入会勧誘同様、機会あるごとにリーフレットを活用し、広報活動に努め勧募を推進。今年度は、真田山陸軍墓地の近隣に住んでおられる方より10万円の寄附金を頂き、活動に対する励みとなった。

④ 墓地管理の強化と環境改善

主たる事務所での墓地案内及び事務機能の充実を図るため、プロジェクターとスクリーンを購入し、今後の活動に活用して行く。

⑤ 理事会・評議員会の開催

理事会・評議員会については、次のとおり開催した。

・理事会 平成27年4月27日、6月4日、10月7日、平成28年2月8日

・評議員会 平成27年5月13日、6月19日、平成28年2月25日

2. 財務状況

今年度は、シンポジウム開催の関係で費用が増加したが、寄附金を多く頂き、経常収入・経常費用とも当初予算より増加した。いずれも補正予算を編成し処理を行った。その結果、当期経常増減額は昨年度より40,869円増加し、-19,700円となり、一般正味財産期末残高は、前年度より19,700円減少の1,325,413円(基本財産への充当額410,000円を含む)を計上した。また、正味財産は前年度末に比べ、19,625円減少し、4,225,638円となった。

3. 年度末の役員・評議員・事務局員の状況

平成28年3月31日現在の役員・評議員・事務局員の数は次の通りである。

・理事数 8名 ・監事数 2名

・評議員数 10名

・事務局員数 2名